



和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」



今年も多くの方々にご来場頂きました

林業試験場では、日々の試験研究だけでなく、森林・林業関係者の多様なご要望に応え、多くの方々にご来場を頂けるように努めています。

研究成果の発表や研修会、技術相談の対応や現地での技術指導、フォレストワーカー、農林業大学等での講義や公開講座、地域イベントへの参加、地域の子供達への学習支援など、これまでの主な取り組みを紹介いたします。

○日高川フォレスト祭(11/11)、翔龍祭・龍神林業まつり(11/17~18)などの地域イベントへ出展

今年も両イベントへ出展しました。研究パネルや現物資料の展示を行うことで、直接、農林家などの関係者へ研究成果の説明が出来、ご意見や技術相談を頂ける絶好の機会と考えています。

今回も「シカの捕まえ方教えます。美味しい山菜教えます。」をテーマに獣害対策やシカ捕獲罠の使い方の実演、山菜の栽培方法や今注目のイタダリの機能性成分を活かした商品の試食会などを行いました。また、松くい虫抵抗性マツの育苗、美山・龍神地域でも大きな問題となっているサカキの新種ヨコバイによる白点被害など花木類の病害虫の防除、紀州材構造用床パネルの展示も行いました。



○平成30年度病害虫研修会(11/2)

新たな病害虫の発生や拡大に適切に対応するため、林業振興課・森林整備課と連携して行政や森林組合等の担当者を対象とした研修会を実施しました。森林総合研究所の所雅彦氏がカシノナガキクイムシ、かき・もも研究所の弘岡副主査研究員がクビアカツヤカミキリ、法眼主任研究員がスギノアカネトラカミキリと松くい虫、竹内研究員が松くい虫抵抗性マツ、坂本主任研究員が花木類の新たな病害虫について対策等の解説を行いました。参加者の関心も高く質疑応答や現物を見て頂き、意義ある研修会となりました。



■ 経営環境部

○日本海型カシノナガキクイムシ

伊都地域のナラ枯れが、これまで県内でみられていた太平洋型でなく、日本海型カシノナガキクイムシによる被害であることが判明しました。(法眼)



日本海型ペア 太平洋型ペア

写真提供: 森林総研 衣浦氏

○伊都地域森林病害虫研修会(11/29)

日本海型カシノナガキクイムシ、クビアカツヤカミキリの侵入、継続する松くい虫被害に対応するため、紀北流域林業活性化センターと連携し、伊都地域等の関係者を対象に研修会を実施。森林総合研究所衣浦晴生氏・法眼主任研究員が解説しました。

熱心な質疑応答がなされ、伊都地域関係者の関心の高さが伺えました。(法眼)



講演する衣浦晴生氏

○新種クマノザクラの学名が決定しました

紀伊半島に分布するクマノザクラを新種とする勝木俊雄氏の論文が日本植物分類学会誌に掲載され、学名「*Cerasus kumanoensis*」(セウノクマノザクラ)が認められました。(法眼)



○平成30年度公設試験研究機関交流会(8/1)

県工業技術センターにおいて、県内の試験研究機関間の情報交換及び交流を進め、新たな研究開発への展開を図るために開催されました。

当試験場から日下主任研究員が「森林防護柵を活用したシカ誘導捕獲技術」について報告しました。シカの捕獲シーンの動画には参加者の関心が集まりました。(日下)



○日本哺乳類学会2018大会(9/7~10)

信州大学伊那キャンパスで開催され、日下主任研究員が「和歌山県における森林防護柵周辺におけるシカの誘導捕獲技術の開発」と題してポスター発表を行いました。配布資料がなくなるほど参加者が訪れ、関心の高さが伺えました。(日下)



○林業種苗生産事業者講習会(10/17)

林業種苗(スギ・ヒノキ・マツなど)を生産、販売するためには本講習を受講し、生産事業者登録を行う必要があります。法規則や技術に関する講義や生産現場での技術指導を行いました。受講生は熱心に林業種苗について学んでいました。(竹内)



■ 木材利用部

○生馬小学校にて木工体験学習(11/30)

「紀の国緑育推進事業」による木工体験学習が上富田町立生馬小学校にて行われ、林業試験場と西牟婁振興局林務課の職員が講師として参加しました。5、6年生の児童の皆さんがヒノキのプランターカバーづくりに挑戦しました。(東山)



○森林総合研究所関西支所講演会「広葉樹はお宝になるか? ~有効活用の可能性を探る~」(10/19)

講演会に出席し情報収集を行いました。近畿地方における広葉樹利用の現状は98%がチップ用原木。しかし、近年はシイタケ原木の高騰や安定した外材広葉樹の確保が困難になりつつある中で、大径木も増えており、用材として利用可能な資源が増加しているため、家具や内装材メーカーから国産広葉樹を求める動きも出てきています。国産広葉樹へのニーズのある事業者と山側とのマッチングが今後重要になってくると思われます。(岡本)

■ 特用林産部

○イタドリの加工・商品開発への取り組み

4月に「きみの山の恵み研究会」から依頼を受けイタドリの加工技術研修会を実施し、皮の剥き方、塩漬け保存方法について実演と説明を行いま

した。参加者からの質問も多くイタドリの利用や商品化への関心の高さが伺えました。

また、今年度から日高川町イタドリ部会および県工業技術センターと共同研究でイタドリの新商品開発に取り組んでいます。検討会を重ね、焼き菓子とドレッシング、お茶の試作品ができました。



皮剥き作業の実演

11月に日高川町フォレスト祭と龍神村翔龍祭で試食・試飲アンケートを実施したところ好評で、約200名もの方々にご協力を頂きました。結果を今後の商品開発に活かしていきたいと思えます。(杉本)



イタドリを活用した試作品

○サカキ新種ヨコバイ防除検討会(7/20)

日高川町美山地区のサカキ林にて、JA紀州、林業振興課、日高振興局林務課に参集頂き、現地検討会を行いました。試験場から研究状況の報告、JA紀州が主体となり試験場・林務課が連携し実施する薬剤試験の実施について説明し、所有者(生産者)を交えて防除対策について意見交換を行いました。

現地での実証試験を通じて、普及に繋がる実用的な防除対策の検討を進めたいと思えます。(坂本)



現地実証試験地のサカキ林

~ 中辺路試験地だより ~

○竹ポット苗木200本を提供

苗木のスクールステイとして、県内の小学校で育てた1年生の竹ポット苗木を中辺路試験地で大きくし、企業等が実施する植樹活動に提供しています。(紀の国森づくり基金活用事業)

12月7日に「JA紀南照葉樹の森づくり」のため関係者に提供しました。提供した苗木は、後日参加者70名により竹ポットを含め1,300本が植樹されました。(城戸)



編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL: 0739-47-2468 FAX: 0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。